

鶴ヶ島市附属機関会議録

【開催概要】

会議名	令和7年度鶴ヶ島第二小学校 第4回学校運営協議会
日時	令和8年3月17日（火曜日） 10時00分～11時30分
場所	鶴ヶ島第二小学校 図書館
出席委員	加藤会長、市川委員、細貝委員、久保島委員、大竹委員、鹿内委員、 町田委員、砥川委員、廣木委員、田島委員、岡田委員 （山崎小学校長）
欠席委員	清水委員
事務局	森田正登教頭、森田雄樹事務主任
議題	（1） 令和8年度の学校経営方針について
配布資料	資料1 令和8年度 学校教育目標・学校経営方針・努力事項 資料2 令和8年度 鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校 グランドデザイン
公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
会議要旨	・資料1と資料2を用いて、令和8年度の学校経営方針について、校長から説明をした。そして、委員から意見や質問をいただいた。

【議事概要】

1 開会（事務局 教頭）

2 あいさつ

<校長>

今年度もいよいよ大詰めとなり、来週24日には卒業式、26日には修了式を迎えます。

様々な皆様のご協力のおかげで、令和7年度を無事に終わらせることができそうです。

この後、来年度の学校経営方針についてご説明させていただきます。学校運営協議会の皆様には鶴二小の一員として、子供達の成長のためにたくさんのご意見やご協力をいただきたいと思います。

<会長>

来年度のPTA役員のことで少しお伝えさせていただきます。PTA本部役員全員が立候補によって揃うことが出来ました。専門委員の方々も揃うことが出来ました。第二小学校は皆さん協力的で、どこも欠けることなく役員を揃えられていること、とても嬉しく思います。

まだまだインフルエンザ、コロナに気が抜けない時期であります。修了式、そして来年度も、どうぞよろしく願いいたします。

3 教育活動視察 10:05 ~ 10:30

4 熟議

議題「令和8年度の学校経営方針について」

○概要説明（校長）

資料1と資料2を用いて、令和8年度の学校経営方針について説明をした。そして、委員へ意見と承認をお願いした。

説明要旨

【学校経営方針】

- ・資料1を図にしたものが、資料2となる。
- ・先代以前の校長から引き継いできた学校教育目標や学校経営方針を、今の子供達の状況を踏まえて、少しずつ変更している。
- ・「目指す学校像」を「一人一人の瞳が輝き、あたたかい学校 ~自己肯定感を高め、元気なあいさつと歌声の響く学校~」へと少し変更した。
その理由として、学校に関わる全ての方とあたたかい関係を築き、居心地の良い学校にしていきたいと思っている。
また、令和7年度に子供達を見てきた結果、自分への自信がない児童が少なからずいることを感じた。令和8年度は1年間をかけて、うまく出来ない自分や失敗してしまった自分もまるごと「自分」として認め、自分への自信をつけて欲しい。
そして、自信をつけていけるような教育活動を行っていきたいと考えている。
- ・「目指す教師像」の変更点として、「公平で温かさ、優しさを持ち、豊かな人間性を持つ教師」「自身の仕事に誇りと責任を持った教師」へと少し変更した。
その理由として、「子供達が自分も人も認めて大切に出来るようになるには、それを教える教師自身もそうでなければならず、そのためには教師自身が豊かな人間性を持っていなければならないということ」、「子供達を育てていくということに誇りと責任を持って、日々の教育活動にあたること」がある。

【努力・重点事項】

- ・「基礎的な学力の定着と思考力、表現力、学習意欲の育成」に、『「聴くこと」を大切にした指導』ということを加えている。
自分も人も認めるためには、人の話を聴くことが基本となるからである。
また、鶴ヶ島市で進めている学び合い学習も話を聴くことが基本であり、これが出来ないと言ひ合い学習が深まっていけないと考えるからである。
- ・「配慮を要する児童への指導や支援の充実」で、特にSSR（スペシャルサポートルーム）の運用に力を入れていきたいと考えている。
- ・「家庭・地域との連携・協働の推進」について
令和7年度の学校評価で、ご家庭への情報の発信がまだ上手く出来ておらず、学校との連携がうまく出来ていないという評価もあった。まずは、学校の活動を地域やご家庭に広く見ていただき、子供や教職員の様子をもっと知ってもらおうと考えている。

【ランドデザイン】

- ・ランドデザインに載っている取組に毎日取り組みながら「目指す学校像」や「学

校教育目標」を実現していくというイメージで、全ての矢印が「学校教育目標」に向かっている図となっている。

- ・令和7年度からの変更点として、細かい説明や「合言葉」を大分削減した。これは「行わなくなるから削った」ということではなく、令和8年度に特に力を入れたいことを鮮明にするための変更である。

○質疑、協議

<委員>

世界を見ると、〇〇ファーストという自分のことしか考えない世界が出来上がってきている。大切な、譲り合う精神が無いと諍いのもとと考える。

「譲り合う」、「助け合い」、「支え合い」という精神を、記載していただけるとありがたいと考える。

<校長>

子供達同士の関係においても、とても必要なことだと思う。すぐに載せる場所を答えられないが、いずれかの場所で使わせていただこうと思う。

<委員>

学校経営方針に「(2) 児童や地域の実態を基盤とした教育活動の創造」とあるが、『地域の実態を基盤』とは何なのかと思う。別の項目として、「(3) 家庭や地域と連携・協働し、信頼される学校づくりを推進」に『地域と連携』という言葉があるので、(2) であえて地域という言葉は使用せず、(3) で使用するのでも良いのではと個人的に思う。

<校長>

鶴二小は、本当に地域の色々な方々に助けていただいているという実態がある。そういった力も基盤としたというか、考え方の根底に入れながらと思って、(2) に使用していた。

確かに(3) にも、『地域と連携・協働し』という言葉もあるので、これに関しては考えさせていただきたいと思う。

<委員>

打たれ弱い児童が増えていると、さきほど校長からお話があった。これは何故かと気になった。

<校長>

年々、鶴二小に限らず打たれ弱い児童が増えているのは何故かと考えた時に、それだけが原因ではないが、失敗したりとか喧嘩したりといった経験が少ないのも原因の一つかと考える。

いつも失敗や喧嘩をした方が良かったわけではないが、人間関係を作っていく上では、小さな喧嘩やぶつかり合いも必要だし、成長していくためには失敗をして、そこから何がいけなかったかを学んで、もう一度挑戦して成功したという喜びを得ることも大事だと思う。

そういった経験を積み重ねる中で、1回ぐらい失敗しても大丈夫というような強さのようなものを、徐々に徐々に6年間繰り返していく中で身についていけば良いと思う。

<委員>

目指す学校像の『自己肯定感を高め、』という表現についてです。

校長先生の言うとおりに、やはり失敗しても良いので、失敗を恐れないことが大事と思う。

その失敗に対しての課題を持ち、その課題をどう解決していくか、それを周りからどう導いていくか、これによって周りも勉強になるし、自信がつくということで、とても良い循環ができると思う。

<委員>

グランドデザインの合言葉を減らして、すっきりしたのがとても良いと思った。

目指すところが矢印で示されていて、さらにわかりやすくなったと思う。

<委員>

失敗をしてしまうのを怖いというのは、本当に雰囲気としての考えなのだが、家庭で愛されているのに愛を感じ取れていない、自信を持っていないというのがあるのではと思う。自分の子が1番だと具体的に褒めたりして伝えていないと、子供が人と自分を見比べてしまうことにつながるのではと思う。

「目指す学校像」に『あいさつと歌声の響く学校』と載っている。ぜひ先生方も児童と一緒に楽しんで歌っていただけたらと思う。

<委員>

スクールガードをしていて感じるのは、朝の挨拶をしてくれる子は限られている。いつも挨拶をしてくれる子は今日も元気だなと感じるが、挨拶をしない子がいるということは少し寂しいかなと感じる。そういったところからも、あいさつをはじめとして失敗を恐れず挑戦する子が多く育ってくれたらと思う。

<委員>

子供が宿題を頑張っているときに、大人がちょっと傍にいて寄り添い、声をかけてあげることがとても大切だと感じる。

挨拶についていうと、初めは挨拶ができなかった子供や保護者にも、こちらから欠かさず挨拶をしていったら段々とまずは保護者が、そしてその子供も挨拶をするようになったことがある。

<委員>

子供は頑張っているのに、親は親自身の理想を子供が出来ないと怒る場合がある。

また、親は褒めないこともある。子供達は頑張っているのに認めてもらえないと、子供は自信がなくなってしまう。

私達も力になりたいと思うが、子供達がもっと自信が持てるような何かがあれば良いと感じた。

<委員>

「努力・重点事項」に載っている働き方改革についてだが、年休10日以上を取得を目標としているが、平均するとどのくらい年休取得しているのか。

<校長>

鶴二小は計画年休が実行されているため、年休を取得出来ている学校だとは思う。

年間10日をちゃんと取得出来ているかということ、わずかだが取り切れていない者もいる。

<委員>

「努力・重点事項」の「(2)生活習慣の向上と豊かな心、健康な体づくり」に「②思いやりの気持ちをもった優しい言動の奨励」と載っている。小学生に対して、『奨励』ということは結構難しいと思う。

学校においては、先生が自ら思いやりの気持ちをもって子供に優しい言葉をかけるといった日常的な接する中での繰り返しが、この『奨励』というところと結びついてくるのかと思う。

<委員>

「努力・重点事項」には、「T・T授業」や「ICT機器」、「SSR」といった略語が載っている。出来れば、意味を記載していただくと助かる。

<委員>

グランドデザインは、学校に掲示して子供や保護者も見ることがある。校内に掲示する際は、子供や保護者が見てもわかりやすくなるように、文字が少ないものを別に作成するのも良いのかなと思う。

ぜひ伸ばしていただきたいこととして、「その他」に載っている「地域企業等とのコラボ授業の実施」がある。今後、学校応援団的なものとは別にして、企業パートナーのような形で協力企業を学校側に増やしていくことで、子供達のいろいろな体験の機会の充実がはかれると思う。

「目指す教師像」のところで、あえて『豊かな人間性を持つ』や『自身の仕事に誇りと責任を持った教師』と変えたのは、何か教師で成長課題を抱えていることがあったのかなと感じたのだが、いかがだろうか。

<校長>

まず、現在学校にいる先生は、真面目に一生懸命やっている先生ばかりである。

しかし、私から見ると、もっと自分の感情をもっと出しても良いかなと思う。

子供の前でもっと笑ったり、怒ることもあったり、悲しければ悲しいで良いし、そういったところをもっと出しても良いかなと、1年間見てきて思うところである。

なぜかというと、子供達も、「先生はこういうことが楽しい」、「こういうことをすると先生も怒るんだ」、「こういうことをしたら先生も悲しいんだ」といった、言葉だけでなく表情や態度から掴みとるところもあって良いのではと思った。

また、先生も失敗をすることもあるということを見せしていくことで、子供達に教えられる部分もあるのではないかなと思う。

よって、あえてそういった言葉を足させていただいた。

『仕事に誇りと責任を持った』というのは、県の目標でもあるが、やはり子供達を伸ばすことが仕事なので、ただ単に授業をすれば良いというものではなくて、子供の成長をもっと伸ばしていく、成長を助けていく気持ちをさらにずっと持ち続けてもらえると良いなということで、あえて入れさせていただいた。

<委員>

保護者に配信するものは、アーカイブ化して保護者がいつでも見られるような形で残していくことがこれからのポイントになっていくと思う。

<事務局 教頭>

貴重なご意見ありがとうございました。こちらを踏まえた上で、令和8年度の学校経営方針を更にブラッシュアップしていきたいと思っております。

5 事務連絡

- ・ 来年度の学校運営協議員の推薦について
 - ・ 令和8年度の学校運営協議会の予定について
- ※来年度は全5回の予定となる。

6 閉会（事務局 教頭）